

無料セミナー

# 乳幼児の養育には なぜアタッチメント が重要なのか

## ～愛着(アタッチメント)障害とその支援～

「愛着障害」という言葉が、最近よく聞かれるようになりました。しかし、そもそも「愛着」とはなにか、なぜ障害がおこるのか、それが子どもの発達にどのような影響をもたらすのでしょうか。

本シンポジウムでは愛着(アタッチメント)研究の第一人者であるチャールズ・ジーナ博士をお迎えし、乳幼児の養育になぜアタッチメントが重要なのかを、施設養育や里親家庭での実証的な研究結果などを交えて語って頂きます。

また、日本で乳幼児と親のアタッチメントの診断や治療に携わっている青木豊先生より、日本での実践についてお話しいただきます。

主催: 日本財団

9月30日(水) 14:30～17:00  
(受付開始14:00)

会場: 日本財団ビル 大会議室(東京都港区赤坂1-2-2)

定員: 200名(先着順・事前申込制) **日英同時通訳あり**

お申込はハッピーゆりかごプロジェクトHPまたは下記URLにて受け付けています。  
<http://www.kokuchpro.com/event/e14dd15a6ef13c64d2240862a4491765/>



特別講演: チャールズ・H・ジーナ教授 14:40～15:40

乳幼児の養育にはなぜアタッチメントが重要なのか  
～愛着(アタッチメント)障害とその支援～

講演: 青木 豊教授 15:40～16:10

アタッチメントに問題をもった乳幼児へ支援  
～日本での実践から～

指定発言&質疑応答 16:10～17:00

<指定発言者> 笹川記念保健協力財団 理事長 喜多 悦子氏  
全国里親会 副会長 木ノ内 博道氏

チャールズ・H・ジーナ

(チューレーン大学教授、乳幼児精神保健研究所所長、精神科医)

乳幼児の精神保健、アタッチメント研究の第一人者でアタッチメント障害の国際的な分類の一つの提唱者でもある。ニューオリンズにて虐待を受けた乳幼児へのコミュニティベースの介入プロジェクトや、ルーマニアの施設養育の影響をランダムサンプリングにより実証的に研究したブカレスト早期介入計画(BEIP)等に携わる。Handbook of Infant Mental Health, Romania's Abandoned Childrenなど著書多数。

青木豊

(目白大学人間学部子ども学科教授、相州乳幼児家族心療センター長、精神科医・医学博士)

国立山口大学医学部卒業、東海大学医学部精神科学教室やルイジアナ州立大学精神科に所属し、チューレーン大学精神科にてフルタイム乳幼児研究員。現在は相州乳幼児家族心療センターにて親と乳幼児のための専門治療チームを組織している。神奈川県児童相談所子ども家庭サポートチーム「虐待対策班」アドバイザー。

お問い合わせ: 日本財団 ハッピーゆりかごプロジェクト 担当: 高橋

TEL 03-6229-5111(代表)

Email tokubetsu\_youshi@ps.nippon-foundation.or.jp